

京都芸術大学 論文執筆ルール（縦書で論文を執筆する場合）

一 論文の構成（※は、ある場合のみ添付すること）

(一) 博士課程

- ① 表紙
- ② 本文目次
- ③ 初出一覧（博士学位論文の構成要素であることを明記する）
- ④ 本編
- ⑤ 註
- ⑥ 参考文献（年代順にならべること）
- ⑦ 研究業績一覧（論文、口頭発表、作品、展覧会など、年代順に列挙）
- ⑧ 資料一覧
- ⑨ 資料※
- ⑩ 図版一覧（番号、作者名、タイトル、技法、年代、所蔵先、出典（執筆者作成・撮影などを含む）※
- ⑪ 図版※

(二) 修士課程

- ① 表紙
- ② 本文目次
- ③ 本編
- ④ 註
- ⑤ 参考資料・参考文献（年代順に並べること）
- ⑥ 図表一覧※
- ⑦ 図表※（番号、作者名、タイトル、技法、年代、所蔵先、出典（執筆者作成・撮影などを含む）※
- ⑧ 発表論文リスト※

二 タイトル・副題

タイトルに副題をつける場合は、一文字空けて、副題の最初と最後に「―（全角ダッシュ）」を使用する。

〔例〕工部美術学校の研究 ―イタリア王国の美術外交と日本―

三 章・節・小節

章：全角算用数字（章の後一文字空けて章のタイトルを記入）

節：全角算用数字（節の後一文字空けて節のタイトルを記入）

小節、項については、任意とする。なお、章末と節末は一行あけること。

四 註と引用文献の書誌情報の書き方

末尾にまとめて註ならびに引用（又は参考）文献を記載する。引用文を註の中で記してもよい。

原則 Word ソフトの機能を用いて註を入れること。

(一) 本文における註の付け方 半角算用数字「例」¹。〔註の番号は句読点の前におく〕

(二) 末尾の注釈における表記 半角算用数字「例」¹。赤井哲郎『京都の美術史』思文閣出版、一九八九年、二三三頁。

(a) 和文の註・引用文献の形式は左記のとおり。

① 著者名 ② 論文名 ③ 編者名 ④ 本・雑誌の題名 ⑤ 翻訳者名、⑥ 出版社名、⑦ 年、⑧ ページ。

〔例 1〕 赤井達郎『京都の美術史』思文閣出版、一九八九年、二三三頁。

〔例 2〕 5 赤井前掲書 一二四頁。／一〇五―一一〇頁。

〔例 3〕 雑誌： 北原敦「日常実践の歴史学へ」『思想』八四八号、一九九五年二月、二四―四二頁。

〔例 4〕 書籍所収論文： 二宮宏之「フランス絶対王政の統治構造」吉岡昭彦・成瀬治編『近代国家形成の諸問題』木鐸社、一九七九年、五―二〇頁。

〔例 5〕 同一著書及び論文に複数の前掲書がある場合は初出時に次のとおり記述すること。

1 赤井達郎『京都の美術史』思文閣出版、一九八九年、二三三頁（以下『京都の美術史』。後続の註では、

5 赤井前掲書『京都の美術史』、一二四頁。

〔例 6〕 直前の同一文献の同箇所を参照させる場合は次のとおり記述すること。

1 赤井達郎『京都の美術史』思文閣出版、一九八九年、二三三頁（以下『京都の美術史』。

2 同上。

3 北原敦「日常実践の歴史学へ」『思想』八四八号、一九九五年二月、二四―四二頁。

四 同上、一二二頁。

五 赤井達郎「蓮如上人絵伝」浄土真宗教学研究・本願寺史料研究所編『講座蓮如』第二卷、平凡社、一九九七年、二二七頁。

六 赤井前掲書『京都の美術史』、一二二五頁。

(b) 英文の註・引用文献の形式は左記のとおり。

- ① 著者名、② 論文名、③ 編者名、ed.、④ 本・雑誌の題名（イタリック体）、⑤ 出版社のある都市名、⑥ 出版社名、⑦ 年、⑧ ページ。

[例 1] Alexander Dalin, *The Soviet Union at the United Nations, an Inquiry into Soviet*

Motives and Objectives, New York, Frederick A. Praeger, 1962, p. 65. (p. の後に半角空ける)

[例 2] Rosalind Krauss, "Sculpture in the Expanded Field", *October*, vol. 8, Spring, 1979.

[例 3] 同一著書に複数の前掲書がある場合は次のとおり記述すること。

Krauss, *op. cit.*, pp. 6-10. (op. cit はイタリック体、cit. の前に半角空ける)

[例 4] 直前の文献もしくは著者を参照させる場合は次のとおり記述すること。

Id., p. 12.

Id., *Grids*, October, vol. 9, Summer, 1979. (著者の場合)

[例 5] 直前の文献の同一箇所（ページ）を参照させる場合は次のとおり記述すること。

Ibid.

(c) 英語以外の欧文の註・引用文献の場合

上記の (b) 英文の註・引用文献の形式に、以下を追記すること

① 著者名原語表記② 著者名片仮名表記を丸括弧内に記す③ 論文名原語表記、④ 論文名和訳を丸括弧内に

記す⑤ 編者名、ed. 原語表記⑥ 編者名、ed. 和訳を丸括弧内に記す⑦ 原語の本・雑誌の題名（イタリック体）、

⑧ 本・雑誌の題名和訳を丸括弧内に記す⑨ 出版社のある都市名⑩ 出版社名⑪ 年⑫ ページ。

[例 1] Rosanna Maggio Serra (a cura di) (ロザンナ・マッジョ・セッラ編), Antonio Fontanesi 1818 - 1882 (アントニーオ・フォンタネージ、1818 年 - 1882 年), Torino, Umberto Allemandi & C., 1997.

[例 2] Fabio Oliveri (ファビオ・オリヴィエーリ), O. Tama Kiyohara dal Sol Levante all' Isola del sole. Una pittrice giapponese in Sicilia dal 1882 al 1933 (清原お玉、日本から太陽の島へ、1882 年から 1933 年までのシチリアにおける日本女性画家), Krea, 2003.

(d) その他の言語の註・引用文献の場合

① 著者名原語表記② 著者名の日本における漢字表記もしくは片仮名表記を丸括弧内に記す、③ 論文名原語表記

(“、” など) その国の慣用に従うこと、④ 論文名和訳を丸括弧内に記す、⑤ 編者名、ed. 原語表記⑥ 編者名、ed.

和訳を丸括弧内に記す、⑦ 原語の本・雑誌の題名 (“、” など) その国の慣用に従うこと⑧ 本・雑誌の題名和

訳を丸括弧内に記す⑨ 出版社のある都市名、⑩ 出版社名、⑪ 年、⑫ ページ。

[例 1] 刘新民 (劉新民)、李建明、『变态心理学』(变态心理学)、合肥、安徽大学出版社、2003 年

[例 2] 박용산 (パク・ヨンサン), 「한일 현대극의 전통수용 비교연구」(韓日現代劇の伝統受容比較研究), 『한민극단학연구』 34 권 (日本近代学研究所 34 卷),釜山, 한민극단학회 (韓国日本近代学会)、2011 年、pp. 188-189

(e) インターネットを参考にした場合↓閲覧日を丸括弧内に記す。

[例] 文化庁用 <http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/index.html> (2019 年 8 月 31 日閲覧)

(全角丸括弧に半角算用数字で年月日を表記)

(三) 図・表の番号と題、図版情報、所蔵・出典 (キャプション)

図・表には、一論文内でそれぞれ通し番号をつけ、番号の後に題、図版情報、出典 (キャプション) をつける。全角丸括弧に半角算用数字、続けて空きを作らずキャプション記入する。

論文に使用する図・表には、「執筆者作成・撮影」等を含め、出典を明記する。

[例] (図1) 会場レイアウト (執筆者撮影)

[例] (表1) 参加者の属性 (執筆者作成)

(四) 数字の表記については、後述の6に準ずる。

(五) 外国語文献の文章の一部を本文中もしくは註釈において引用する場合、翻訳者名を明らかにすること

① 和訳刊行されているものを使用する場合↓上述の註のルールによる註記でよい。

② 論文執筆者による翻訳の場合↓翻訳文章の後、丸括弧内に執筆者本人によるものであることを明記する。

[例] 「中世の室内における偉大な要素は家具である」。(論文執筆者訳) (*。は註の番号)

③ AIによる翻訳の場合↓翻訳文章の後、丸括弧内にサイト名もしくは機種名などを明記する。別紙「学修及び研究活動におけるAIの取り扱いについて」を参照。

[例] 「人生とは広大な活動の場である」。(Google翻訳)

※引用元著者、論文タイトル、掲載誌、発行者、発行年、引用元の頁、(ChatGPTによる翻訳、

翻訳年月日、OpenAI <https://chat.openai.com>)

※用語の統一や文脈上の必要から修正した場合は「(ChatGPTによる翻訳、文脈上の必要から筆者による編集済み、翻訳・編集年月日、OpenAI <https://chat.openai.com>)」と記載する。

五 図 (画像) ・表の番号と題 (キャプション)

図 (画像) ・表には、一論文内でそれぞれ通し番号をつけ、番号の後に題 (キャプション) をつける。

全角丸括弧に半角算用数字、続けて空きを作らずキャプション記入する。

[例] (図1) 会場レイアウト

[例] (表1) 参加者の属性

六 数字の表記は左記のとおり記述すること。

年号 [例] 一九一〇年、平成五年

日付 [例] 平成十三年二月二十七日、二〇〇四年一月一日

世紀 [例] 十九世紀、二十世紀、五世紀

単位 「数字を漢数字で表記する場合の例」二八五センチメートル、二・三グラム

[数字を算用数字で表記する場合の例] 285 cm、2.3 g

七 文字のフォント (書体)、サイズ等

※大学院紀要論文は、左記のフォントに定める。

※博士論文は、正本 (製本された紙媒体及び電子データ) 提出時においては、左記のフォントに定める。

※修士論文は、左記を推奨フォントとする。

(一) 本文

原則として和文はMS明朝、欧文はTimes New Romanを使用する。各項目のフォント・サイズ等は左記のとおり定

める。

タイトル…一二ポイント・MS明朝・太字、氏名…一二ポイント・MS明朝
章…一〇ポイント・MSゴシック・太字、節・本文…一〇ポイント・MS明朝

(二) 英文要旨

原則として Times New Roman を使用する。各項目のサイズ等は以下のとおり定める。

タイトル…一二ポイント・太字、氏名…一二ポイント、本文…一〇ポイント

なお、図、表等のキャプション、図版情報、所蔵・出典（キャプション）は、横書きとする。フォントは原則として和文はMSゴシック、欧文はArialを使用する。

※本文中内では表記を統一すること。

※本論文執筆ルールに記載されていない事項については自由裁量。不明な点は指導教員に相談すること。

2020年9月29日制定

2021年9月13日追加修正

2022年9月30日追加修正

2023年4月13日追加修正

2023年4月28日追加修正

2025年4月1日追加修正